

第 150 号

2019年3月

ラルーラ通信

<発行>

中部学院大学
子ども家庭支援センター
〒504-0837 岐阜県
各務原市那加甥田町30-1
Tel.058-375-3605
fax058-375-3609



限界を感じない子ども

中部学院大学教育学部 教授
子ども家庭支援センター「ラ・ルーラ」副センター長
西垣 吉之

ほるぶ出版からでている“いつかはきっと”という絵本があることをご存じですか？ ある少女が主人公の物語です。その子は自分があんな風になりたいという夢や、あんな風になれたならという憧れがとても強い子でした。人は、あんな風になれたらいいなという気持ち（動機）によって、その夢に向かって努力をするものです。だからこそ、あんな風になりたいという思いをいっぱい持った子に育てたいと親は思います。しかし、一方、子ども達は、自分の限界を知っていき、そうした限界にぶつかった時にあきらめてしまうような人生は送って欲しくないのです。その限界を乗り越えることでもっと素敵な自分になれるということ、実感して欲しいと思うのも親心だと思います。

実は幼児期は、自分に無限の可能性があると見える気持ちと、自分にはできないことがあるということの狭間に立って、葛藤したり、それをうまく受け入れられずにイライラしたりする時期でもあるのです。その思いに気づき、一緒にその限界を乗り越えていくように大人は援助していく必要があります。

3歳児クラス お弁当をクレパスで描いてそれを切りぬいて、お弁当箱に見立てた箱に入れてお弁当を作っている場面。T男が「見て、見て」と保育者の手を引いて連れて行ってさっそく見せてくれました。するとクラスのあちらこちらから、「これねバナナ！」「これからあげ」「これはね・・・」とみんなが自分の描いたものを見せてくれます。私はもちろん「おいしそうだね」とか「大きいバナナだね」などと受け止めるのですが、それはどう見ても子ども達が伝えてくれる“もの”には見えないのです。

読者の皆さんも、子どもから絵を見せられたとき、どのように応えて良いのかわからないという経験をされた覚えはありませんか？

こんな時、大人はどのように対応すればよいのでしょうか。

実は人が生きていく上で、自分の存在をほぼ無条件で受け止められている感覚を持ち合わせていることがとても大切だと私は思っています。この感覚は、子ども自身が生きていていいんだという自己存在感を持つために、また未来に拓かれた自分への肯定的なイメージをつくるための基盤なのです。自分の可能性を信じられる気持ちが生きる力につながっていくのです。こうした意味では、自分の限界（できないことがあるということ）に鈍感であることがこの時期の子どもらしさといえる。

一方、そうした無条件に自分の存在を受け止められる力を基盤としながらも、子どもたちは自分にできないこと、自分だけでは乗り越えられないことを感じていくのです。その事態にどのように対応できるかは、あんな風になりたいというあこがれや夢を持っていることや、「なんとかなるさ」という自分への漠然とした信頼を持つことが必要になるのです。ただ、最後に付け加えておきたいのは、生きるための力として、「自分には限界がある」ということを受け止められるようになることも、この時代を生き抜く大切な育ちの一つであるということも、認識しておく必要があると思いますがいかがでしょうか？

2018年度を振り返って

今年も一年間たくさんの方と楽しい時間を過ごしました。
一年間の思い出の一部をご紹介します。

春



ぎふ木育ひろば・木育教室

木育教室のひとつ「野遊びウォーク」を春の学びの森で体験したり、四季をとおして木に触れ、樹木観察したりもしました。まあるいつみきで遊んだり、「つみあゆ作り」も体験しました。地域拠点としての木育教室も3月には開催しました。



お母さんのためのリフレッシュタイム

趣味の講座です。少し手の込んだ作品を講座の時間を越え、個々に作品作りを楽しんでいます。作品を仕上げるだけでなく、子どもをあやしめながらお母さん方の繋がりも広がり子育てトークに花も咲きました。

お子さんの相手をしながら
ゆったりと



いろいろな作品を
作りました

赤ちゃんサロン

赤ちゃん(0歳児)とお母さんと一緒に過ごすおしゃべりサロン。身近な物でおもちゃ作りを通してママ友づくりのきっかけにもなっています。



夏



親子クッキング

親子で作って「食べる」を基本に、作る過程を楽しみました。1歳児さんから参加し、お弁当を持って学びの森へも行きました



砂場デッキで水遊び

水遊びも泥んこ遊びも思いきり楽しめました。賑やかな夏の風景です!



ラ・ルーラ畑の野菜
(たまねぎ)



小さなお子さんは
個々のタライで水遊び

夏祭り

学生企画の夏祭り。今年も地域の方と一緒に楽しい夜を過ごしました。



あそび広場

親子遊びを楽しみながら友達も意識できるような内容で楽しみました。家庭では出来ない遊びや季節毎の散歩も楽しみました。



「手作りうちわ」
いろいろな屋台でも遊びました



秋

作って遊ぼう

「パパとママと一緒に作る」がキーワード。遊べるおもちゃから新聞紙テントまでいろいろ作って遊びました。



「新聞紙テント」
中に入ってあそんだね



パパと一緒に作った力作
製作コーナーにて



「秋の散歩」
みんなが集めた木の实



ランチタイムコンサート(毎月4~5回)

吹奏学部(教育学部学生)による生演奏。季節の曲や子どもが知っている曲から大人向けのクラシックなどグループによって様々で毎回幅広い内容です。演奏後のふれあいの時間も講評で楽しみにしてもらっています

お話の時間

遊びの様子に応じて開催しました。図書館からの出張読み聞かせもありました。



冬

誕生日会

手型や写真をとったりして事前に誕生日カードを楽しみながら作り、当日は吹奏学部の学生の演奏でHappy Birthdayの歌を歌ってみんなでお祝いしました。



ハロウィンの衣装を作って
学内散策



学生とのかかわり 主に教育学部・幼児教育学科の学生が授業や実習などでかかわりをもちました。



学生手作りの教材やおもちゃでも一緒に遊びました



昨年度の遊びの様子



季節の行事・遊び

砂場テッキでの水遊び・夏祭り・野菜の収穫・クリスマス会・節分の豆まきなど、学生とも一緒に遊びました。

入学を祝う会

来年度から小学生になるお兄さんお姉さんを祝う会です。小さい時から遊んだら・ルーラで最後に思いきり遊びました。



春休み特別企画

ぎふ木育ひろば地域拠点設置記念行事として 3月26日(火)に「ぎふ木育教室」を開催します。映像を見ながらぎふ木育のお話を聞いたり、ワークショップでは「つみあゆ」作り(親子でサンドペーパーをかける作業)をします。ゆったりと寛ぎながら参加出来るように、会場の一角にはカフェスペースも設けます。ワークショップに参加しながらママ友作りにも繋がります。

催し終了後はラ・ルーラにてご自由に遊んでいただいても構いません。少しずつ暖かくなってきましたので砂場デッキで思いきり砂遊びも楽しんでください。

3月26日(火)
10:30~
参加費無料

定員 先着50名 申し込み「ラ・ルーラ」
TEL058-375-360

参加者募集!

中部学院大学
子ども家庭支援センター「ラ・ルーラ」

3月26日(火) ぎふ木育教室

ぎふ木育ひろば地域拠点設置記念行事
参加費無料!
(催し終了後 ラ・ルーラ内でも遊べます!)

ラ・ルーラの「ぎふ木育ひろば 地域拠点設置記念」行事として
木育教室(木育カフェ)を開きます
木育についてのお話を聞いたり
木育カフェでは親子で「つみあゆ」を製作します

3月26日(火) 10:30~

定員 先着50名 申し込み「ラ・ルーラ」 TEL058-375-3605
定員になり次第受付終了します。お早めにお申し込みください。

プログラム

10:30~11:00	ぎふ木育のおはなし 講師:岐阜県木育推進室課室長
11:00~11:50	木育カフェ(ワークショップ) 指導:ぎふ木育推進委員 教材:「つみあゆ」作り(参加費無料)
12:00~12:15	「地域拠点」認定式 認定書交付 学長あいさつ おもちゃを前に全員で記念撮影

カフェスペース(飲み物とお菓子)も用意。親子でゆったり寛ぎながら、また子育てトークに話を聞かせるとそれぞれの親子さんで楽しみながらご参加ください。

「つみあゆ」
岐阜県立森林文化アカデミーの卒業生のデザインで、県内産のヒノキの間伐材を使い、良良川に住むアユを表現したものです。美濃市では木育の一環として1歳を迎えるお子さんに木の赤ちゃんを贈るウッドスタート事業として活用されています。

「つみあゆ製作」はサンドペーパーで仕上げる前の段階まで製作した商品(1家庭2個)を巻きの仕上げを行います。完成品はラ・ルーラで通称学室ですがご希望により1個お持ち帰り出来ます。

木育カフェ(ワークショップ)

「つみあゆ」を作ります。またゆったりと過せるようにカフェスペース(飲み物とお菓子)も用意します。
小さなお子さんのも参加OKです。プログラム中の会場の出入りも出来ます。それぞれの親子さんで楽しみながらご参加ください。

今年も大勢のみなさんと様々な出会いがたくさんあり
何気ないおしゃべりから仲間が出来たり
繋がりが広がったりもしました。

そんなみなさんのたくさんの笑顔に支えられながら
ラ・ルーラも一緒に歩むことができました。

これからもそんなお一人お一人との出会いを大切に
皆さんと一緒に歩めるラ・ルーラでありたいと思っています。
共に元気に過ごせることに幸せを感じ
皆様に感謝すると共に来年度もよろしく願いいたします。

